

命を
守れ

イスラエルは直ちに 無差別殺戮を止めよ！

子どもの死者4000人越す

10月7日に起こった、パレスチナ自治区ガザを実効支配するハマスによるイスラエルへの攻撃に対し、イスラエルによる激しい無差別攻撃が激化して1ヶ月がたちました。

双方の死者は1万人を超え、イスラエル側の死者1400人余、ほとんどの死者はパレスチナ人で、子どもの死者は4000人を超えています。

イスラエルはガザへの水道、電気、燃料、食料の供給を遮断し、難民キャンプや病院、救急車までも無差別に攻撃し、地上軍事作戦も開始しました。このままでは、さらに多くの人命が奪われます。一刻の猶予もままならない事態です。国際法違反の無差別殺戮はただちに中止し、即時停戦を求めます。



イスラエルは不当な占領を止めよ

この衝突の根底にあるのは、イスラエルによるパレスチナへの無法な占領と植民地支配です。イスラエルは住民の強制排除を行い、ガザ地区には封鎖と侵攻をくり返してきました。ガザ地区は「天井のない監獄」と呼ばれ、230万人もの人々が貧困にあえいでいます。

このイスラエルによる不当な占領を止めさせ、パレスチナとイスラエルの双方が相手の生存権を認め、平和的共存の原則の下に話し合いで解決することが求められています。国際社会はそのために努力すべきです。

恥ずべき日本政府の態度

10月27日、国連総会はイスラエルとハマスの大規模衝突をめぐり、すべての当事者に国際法遵守と自制、そして「人道的休戦」を求める決議を121カ国の賛成で採択しました。米国やイスラエルなど14カ国が反対し、日本や英国など44カ国が棄権しました。恥ずべきことです。

岸田首相が繰り返しているのは、「人道的な戦闘休止」です。一時的な戦闘休止はいうものの戦争そのものの休戦は求めています。アメリカの顔色を伺う姿勢では、世界から信頼を得ることはできません。

イスラエル大使館に

抗議のメール、ファックス、電話を集中しましょう！

Fax 03-3264-0791 TEL 03-3264-0911
大使館広報部メール：information@tokyo.mfa.gov.il

日本政府は、イスラエルによる国際法違反の蛮行をやめるよう求め、双方に即時停戦を働きかける外交努力を尽くすべきです。

日本政府は、ハマスとイスラエルに
即時停戦を求め行動を！

